

遠州横須賀

国選択無形民俗文化財

# 三熊野神社大祭

令和六年四月五日(金)・六日(土)・七日(日)

奉納当番 大工町(せ組)

みどころマップ

発行者

掛川観光協会大須賀支部

静岡県掛川市長谷1-1-1 TEL (0537)21-1121

<https://www.city.kakegawa.shizuoka.jp/kanko/docs/7469.html>



**輝く宝物後世に!! 重要無形民俗文化財指定に向けて**

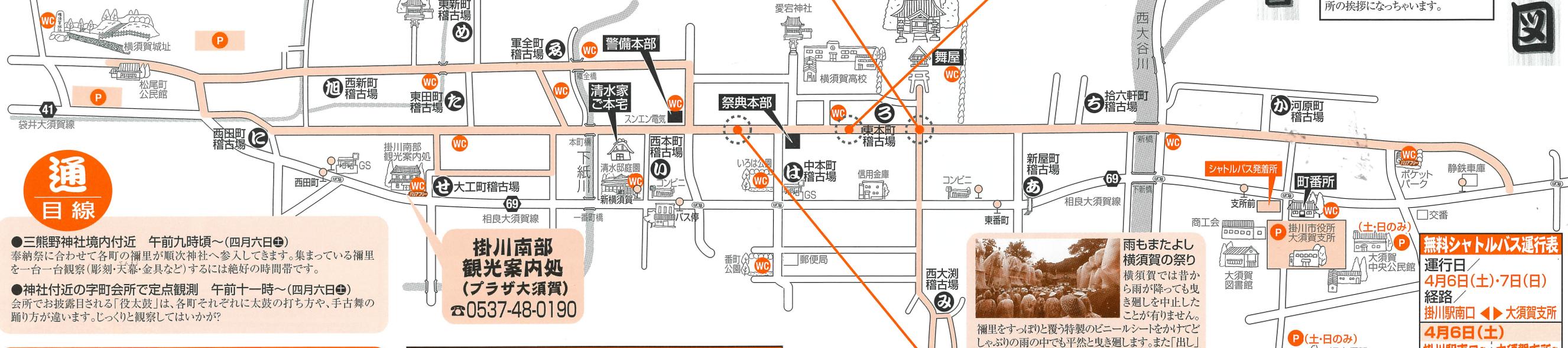
平成31年(令和元年)より御祭礼調査が開始されました。調査内容としては、中核となる「大祭神事」や「地固め舞と田遊び」、そして「付祭り」。先行して開始された「付祭り」の調査では、御祭礼運営に関する字町の組織構成や禰子の巡行経路などの聞き取りを皮切りに、同時並行で禰子・出し・万度などの大道具調査や囃子・舞などの芸能や楽器の調査、さらには字町に残された文献調査が現在も進められています。

肝心な仕度や囃子の稽古を含む御祭礼当日の現地調査については、専門官の先生方の日程調整や調査に関する事前打合せなども行われ準備も整いつつあった矢先、新型コロナウイルスの世界的流行の波にのまれ、令和2・3年の御祭礼がともに中止となりましたので、令和4年以降の御祭礼で行われることとなります。

調査報告書の取りまとめと作成、文化庁への申請は当初の予定より遅れますが、保存会といったしましては地元横須賀の方々に三熊野神社大祭の文化的価値、並びに重要無形民俗文化財指定の意義に関するご理解を深めて頂けるよう活動を続けてまいりますとともに、少子高齢化に関する課題や祭礼関連職(提灯・刺繍・竹ご・彫刻・禰子建築、大花材料など)の伝承に関する課題にも取り組んでまいります。



《大道具調査のようす》



**通目線**

- 三熊野神社境内付近 午前九時頃～(四月六日) 奉納祭に合わせて各町の禰子が順次神社へ参入してきます。集まっている禰子を一台一台観察(彫刻・天幕・金具など)するには絶好の時間帯です。
- 神社付近の字町会所で定点観測 午前十一時～(四月六日) 会所でお披露目される「役太鼓」は、各町それぞれに太鼓の打ち方や、手古舞の踊り方が違います。じっくりと観察してはいかが?

**お祭り雀のつばやき**

- 一)本楽禰子供奉の順番 拜殿西側掲示板 午前九時頃(四月六日) 宵宮の日の午前八時から拜殿にて供奉順の「籤引き」が執り行われます。拜殿西側の掲示板に決定した供奉順に、各字町の手提灯と木札が掛けられますのでご確認ください。でも、一・六・十一・十二番は引きたくないんです。なぜかって…町の人に聞いてみてください。
- 二)「大花」の数 ちっちゃなことですけどね! 「大花」は、禰子を飾るとてもたいせつなもの。薄紙を紅で染め、長い竹ヒゴに紫の紙テープを巻きつけて作って行くんですが、その花の数が各町さまざま、七つだったり八つだったり、ヒゴの先端も花で始まったり葉紙(緑の紙)で始まったり、面白いですね。もっと言うと、花を作る薄紙の形も長方形だったり正方形だったり、紅の染め方も、角から染めたり辺から染めたり……!!
- 三)祭りの音 俗に「横須賀の高張太鼓」と言われるように、横須賀では尺六寸の長胴の太鼓を限界ギリギリまで張上げます。跳ね返るように高い、カンカンと言う音色が独特の囃子のリズムには必要不可欠。また摺り鉦も小太鼓・大太鼓・笛・曳き手を助けるように音に余韻を持たせずチャッチャッと言う洪い音色が出るように打ちます。昔の人が「四助」と呼んだのは頷けますね。
- 四)祭りの数 祭りごとは偶数よりも奇数(割れてはいけません)。大太鼓の皮を止める鉦は、何が何でも三ツ鉦(三列)、東本町の丸提灯に描かれた町印の亀の絵文字はハネの部分、頭は三・足が五・尾が七で「七五三」になっています。
- 五)「花」の色 禰子を飾る「花」は、薄紙をローゲミンと言う染料で染めて作ります。染め方で色の濃淡が決まってしまうため「花」を作る若い衆も真剣そのもの、「ことしゃ〜ち〜って濃いなあ〜」とは古老のつぶやき。チョッピリほろ苦い。
- 六)祭りのにおい 衣装の入った木箱を開けたときのショウノウのにおい。お神酒のにおい。禰子の漆のにおい。露天商のたこ焼やお好み焼き・りんご飴のにおい。蠟燭を灯した時の提灯のにおい。お祭りを感じるにおいって良い。それだけでもウキウキ。

**四月六日(土)宵宮 三熊野神社境内**

**籤引き**  
四月六日(土) 午前八時～  
朝祭りが終わる各町では禰子が正装の仕度を整えているところ、三熊野神社では各町の青年幹事・副幹事が集まり、「本楽」の神輿渡御供奉順を決める「籤(くじ)引き」が執り行われます。御祭神への神聖な儀式の後「予備籤」「本籤」の順に引かれて供奉順が決定、一喜一憂する若い衆の表情は見物!

**奉納祭**  
四月六日(土)午前十時半～  
午前九時ころより各字町の禰里が神社に参入、全十三町が揃い大勢のお祭り雀の厳しい視線が注がれる中、拜殿前に設えられた「舞屋」の上で代表字町により正調江戸囃子の名残を今に留める「三社祭礼囃子」が披露されます。代表字町(奉納当番)は、旧来一番籤を引いた字町が務めていましたが、昭和五十五年以降は「輪番制」となり、本楽の禰里供奉順路に従った順番でご奉仕しています。

**役廻り**  
午前十一時～  
横須賀地区全域  
三熊野神社に参集した各町は、奉納祭終了後禰里を曳き廻しながら全町会所へ御挨拶に出向き、「役太鼓」を披露します。「役廻り」は、氏子皆でこのハレの日を迎えることが出来たという喜び、わが町も本楽での神輿渡御に供奉する禰里の準備が整い、他町皆様のお仲間になれたことを表す御挨拶です。

**お殿様御上覧**  
午前九時～  
奉納祭に合わせて神社に参入した禰里は、まず御祭神に「役太鼓」を以て御挨拶、合わせて横須賀城主西尾家御末裔第十三代忠愛公の御上覧を仰ぎます。江戸期における横須賀城にての御上覧を偲ぶ所作として、神社拜殿に設えられた御上覧席にお殿様を御迎えています。

※写真・動画撮影の際は、ご神前及びお殿様ご上覧を妨げる行為は慎んで頂きますようお願い致します。  
※奉納祭終了後は、禰里が西・東・南と三方向に分かれて順次退出致しますので十分ご注意ください。

**四月五日(金)揃(そろい) (三熊野神社周辺)**

「出し」をつけた正装での曳き廻し  
四月五日(金)十二時～  
三熊野神社付近  
「揃(そろい)」とは、御祭礼の仕度が整った報告と御廻しのごとで、禰里は「出し」を乗せた正装が本来ですが、各字町の事情により夜仕度(「出し」を外して丸提灯をつけた姿)の曳き廻しが多数を占めています。

舞屋建て  
御祭礼二週間ほど前に三熊野神社拜殿前に「舞屋」が建てられます。「舞屋」が建てばお祭り気分も一段と高揚、ネリキチ達の血も騒ぎ始めます。

稽古上げ  
御祭礼前日の木曜日、各字町では稽古場にて総代・組頭・町衆の見守る中、「稽古上げ」が行われます。三月初めから囃子の稽古に打ち込んだこともたちや、指導にあたる青年たちがその出来栄をお披露目します。緊張の一瞬!

お宮の桜  
三月に入るとネリキチたちは三熊野神社の桜に注目! 芽が出たと言っは遊び蓄に赤みが差したと言っはニシマリ、「こんには、まだ寒いねえ〜、ことしゃ桜んどうだいねえ〜」がご近所の挨拶になっちゃいます。

**もうすぐお祭り**

**みどころ**  
ごだわり  
早わかり

**四月五日(金)揃(そろい) 四月六日(土)宵宮**

**無料シャトルバス運行表**

運行日	
4月6日(土)・7日(日)	
経路	
掛川駅南口 ↔ 大須賀支所	
4月6日(土)	
掛川駅南口発	大須賀支所発
8:30	9:20
10:00	10:50
11:30	13:10
13:50	14:50
15:30	16:50
18:00	19:00
4月7日(日)	
掛川駅南口発	大須賀支所発
8:30	9:20
★9:00	★9:50
10:00	10:40
★10:30	★11:40
11:20	13:00
★12:30	★14:10
13:40	14:40
★14:50	★15:50
15:20	16:20
★16:30	★17:20
17:30	18:10
★18:30	★19:10

※定員により乗車できない場合がございますので、お早めにお出かけください。  
※状況によっては時間等が変更される場合もあります。

**出し上げ 四月六日(土)宵宮・七日(日)本楽**

午前七時～七時半頃  
朝祭りが終われば昼仕度、花を下ろして「出し」を上げ、天幕を付けた禰里は華やかな姿に生まれ変わります。東本町と大工町では芯木を倒して行く古来からのやり方で「出し上げ」を行っています。大勢の練係や若い衆がそれぞれの持ち場で役割を担い、事故の無いようにゆっくりと慎重に作業が進められて行きます。また東本町は芯木を細かく動かせるように滑車を用いていますが、大工町では「せいの一〜」で一気に引きあげます。天候や運行の都合上、写真のような(出し上げ)を行わない場合もあります。

東本町・る組 四月七日(日)本楽のみ  
※天候等の諸事情により中止となる場合があります。  
大工町・せ組 四月六日(土)宵宮・七日(日)本楽  
※両日共に雨天でも行っています。

**夜祭り(本町通り) 四月六日(土)宵宮**

午後六時頃～  
「役廻り」が終わって「出し」を下ろし、丸提灯で彩られた禰里が夜の帳が降りた町並みへ繰り出して行きます。たくさんの手提灯の灯りが揺らめき、お祭り気分も最高潮。「夜はちい〜っと早調子でな」、古老のお言葉よろしく小太鼓が打たれ、切れの良い大太鼓のブチが盛り上げます。笛も摺り鉦も負けじとほりきって、禰里と曳き手が一体となり、見る人も「腰が浮く」類稀なる名調子の祭り絵巻が繰り広げられます。本町通りは多くの禰里が集まり、「すれ違い」も度々見られます。ちょっと離れた新町筋や田町・車全町などで調子よく動く提灯の灯りを楽しむのも一興です。

**朝祭り(横須賀地区全域) 四月六日(土)宵宮**

まだ夜も明けやらぬうちから微かに笛や太鼓の音色が聞こえてくる。早朝の澄んだ空気の中、ややゆっくり目の囃子のリズムに乗って調子よく禰里が曳き廻される。見る人も無い町並みで、囃子が奏でる独特のリズムのうねりに身を任せ、じっくりと禰里を曳く喜び。ネリキチ達は口を揃えて言う「やっぱり朝祭りが良い!」

**御城下之図**

四月七日(日)  
本祭

第一お旅所 四月七日(日) 本祭

**第一お旅所**  
西大谷川西側 午前十二時頃  
午前十一時、花火を合図にご発進となった渡御行列は、横須賀街道を東進、一番瀬川のお出迎えを受けつつ県道下新橋を経て第一お旅所に向かい、所定の位置にて「神子抱き神事」が行われます。通称「おねんねこ様」と呼ばれるお人形を抱かせて頂くと家宝に恵まると古来から言い伝えられ、その霊験もあらたかなことから遠方より訪れる方も大勢います。

通  
目線



●**神輿渡御行列のお迎え**  
「御神輿様」がおいでになると瀬川は、左に寄せて「杵」を下ろし、囃子の人たちは全員瀬川から降りてかぶり物を取り正座でお迎えます。敬神と感謝の意を表す清々しい姿です。二階におられる方は一階に下りて、食事の方は一時中断して共に迎え頂ければ幸いです。

●**拾六軒町あたり** 午前十一時頃  
新橋を西に下ってすぐの拾六軒町は、道幅も狭く風情のある町並みが密集していてとても良い! 「瀬川の似合う町並み」第一位です。

●**スエン電気前** 午後七時～八時頃  
千秋楽に次ぐ夜祭り最大の見処、特に七番あたりが来る頃には本町通りにも軍全町方向にも瀬川がいて実際にぎやかで若い衆の意気も最高潮です。

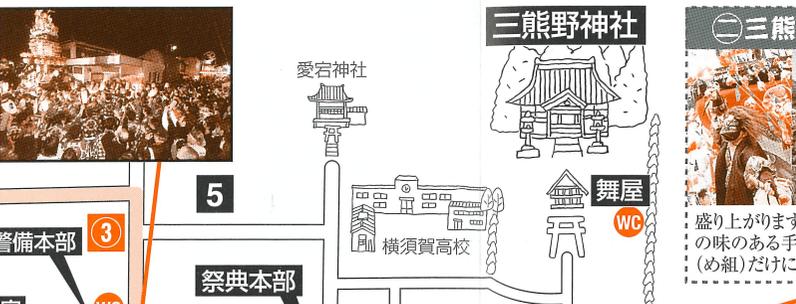
●**本町通り** 午後八時頃～  
やっぱりぎやかな本町通り。瀬川行列全体の進み方にもよりますが、うまくいけば神社前からスエン電気までの間に、スッポリと十三台の瀬川が収まり煌びやかな絶景を見ることが出来ます。ほんの一瞬ですけどね。

四月七日(日)本祭 三熊野神社境内

**地固め舞** 午後三時頃  
三熊野神社境内舞屋  
大地を払い清める太刀や長刀等の所作が行われる五穀豊穡を祈る神事。西大瀬の若衆が長老の指導のもと厳しい稽古を積んで取り組んでおり、本祭当日は、襦をして臨んでいます。

**田遊び**  
地固め舞と一連の神事で、唄に合わせて若衆が苗に見立てた松葉を大地に投げ、田植えのさまを表現し作物の豊作を祈ります。今沢地区の若い衆が務めています。

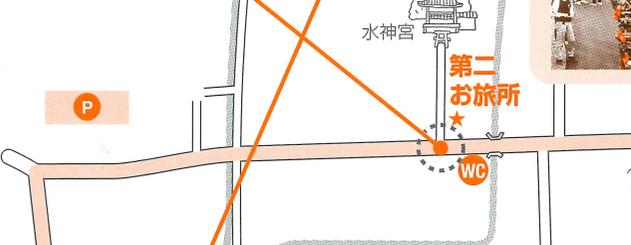
**千秋楽** 午後九時  
これこそ三熊野神社大祭最高の見処、神輿渡御供奉のお役を無事に務め上げた瀬川は神社境内へ舞屋にて御報告に続き御幣及び順番旗の返納が執り行われ、御祭礼は結びとなります。夜の帳に各町それぞれに工夫を凝らした照明が「出し」を彩り、無数の手提灯が揺れ動く様は実に圧巻です。千秋楽儀式中に訪れる一瞬の静寂に覆われた境内は、「シャン・シャン・シャン・シャヤヤン・ヤン」の手打ちを合図に再び興奮の垣塙(るつぼ)と化します。千秋楽を終えた瀬川は、定められた退出順に従って一台また一台と神社を後にし、自町への御挨拶を以って御開きとなります。また来年!



第二お旅所 四月七日(日) 本祭

**第二お旅所**  
水神宮 午後一時頃  
第一お旅所での神事を終えた渡御行列は、一路水神宮を目指します。江戸期は、御上覧を賜った横須賀城がその地でありましたが、明治四年の廢城の後、お城を模写した絵図が水神宮に奉納されたことから第二お旅所の地と定められました。東側女坂中段付近に神輿仮安置する場所が特別に設けられ、当日西新町町衆により赤土や塩でお清めがなされます。

**神輿渡御行列のお出迎え**  
古来より東西新町では「御神輿様」を第二お旅所まで導く大事なお役目を仰せつかっています。東新町入口にて蔦口を携えた古老二名がお出迎えし、西新町境まで先導、西新町入口でも古老二名が同じ蔦口を手に水神宮まで先導を務めます。



水神宮前 午後二時頃

東新町地内の横町からたて町を抜けて西新町へ、新町筋は道幅もやや狭く町並みに瀬川が良く似合っています。供奉行列は、新町筋中ほどの「水神宮」を右手に見ながら、かつての御城内松尾町を経由して田町筋へ。

通  
目線

●**西日射す夕方がポイント**  
本祭の夕方、大工町は西日を真っ直ぐに受ける。その西日を受けながら軽快に動く瀬川の万度や彫金、キラッキラッと反射する。朝練りの朝日を浴びた光景は良く知られているところだが、出し人形を着けた正装の瀬川が連なり、西日を浴びて光る瀬川を正面から楽しめるポイントはここだけだ。「通」なわねりき衆が、大工町積古場前でこの光景を楽しんでいる姿は今も昔も変わらない。

四 大阪屋前 午後四時頃

田町筋の東端まで進んだ瀬川行列は、右へ折れて再び田町筋から横町へ、瀬川は軍全町地内軍全橋より木札が置かれた所定の位置に「杵」を下ろし夜仕度を整えます。食事もそこそこに再び瀬川から「杵」が上がる頃には「出し」の照明も灯され、丸提灯や手提灯にも灯が入って一層幻想的に、いざ千秋楽へ。でもちょっとさみしいよ～

五 横町(東新町地内) 午後五時頃

河原町蓮池を出発した神輿渡御行列、本町通りから新町筋・田町筋・大工町を清めて再び田町筋から横町へ、瀬川は軍全町地内軍全橋より木札が置かれた所定の位置に「杵」を下ろし夜仕度を整えます。食事もそこそこに再び瀬川から「杵」が上がる頃には「出し」の照明も灯され、丸提灯や手提灯にも灯が入って一層幻想的に、いざ千秋楽へ。でもちょっとさみしいよ～

通  
目線

●**盗人かぶり**  
遠州横須賀では手ぬぐいの使い方も一味違う。「勇み鉢巻」や「向う鉢巻」の若い衆の凛々しい姿に混じってちらりほら、年季の入った腰つきでお囃子に酔いしれ、悦に入っている「盗人かぶり」の御仁。いつも決まったお気に入りの場所でお囃子を曳く粋な姿は、暗闇に提灯の灯りが揺らめく夜祭りが良く似合う。これも横須賀ならではのお祭り風情だ。

六 三熊野神社前 午後八時頃

神輿渡御行列に従って横須賀地内を順路に沿って一周、囃子の音色と曳き手の心意気で清めた瀬川が御祭神の待つ神社へ戻ります。境内は、見物の人々で埋め尽くされ、祭り情緒を醸し出す板店の灯りと相まって雰囲気は最高潮、一番瀬川も誇らしげに、そして威勢よく練り込んで行きます。

一 河原町蓮池 午前九時半

瀬川は、花を下ろして出しを乗せ、羅紗の天幕で飾られた正装で神輿供奉瀬川行列の出発場所、河原町蓮池に参集します。自町を大間でもゆくりと引き廻し、供奉行列への出発のご挨拶を済ませると囃子は屋台下に変えられ急いで河原町蓮池に向かいます。神社より東側に位置する新屋町・拾六軒町・河原町は、神社に御挨拶を済ませてから蓮池に向かう所作を残しており、特に河原町は、最初に供奉順番の位置に付けて他町の皆様をお迎えする伝統が、今も受け継がれています。

観覧の注意	お食事処	お食事処	旅館	お	土	産	処	市外局番(0537)			
安全に楽しく! 瀬川の運行の妨げになる撮影は遠慮をお願いします。	③ <b>ひらめの宿</b> 焼きそば、お好み焼き、ラーメン 29-6066	② <b>まるへ</b> お食事 48-2131	① <b>八百甚</b> 割烹旅館 遠州横須賀ふるさとのお宿 48-2008	⑧ <b>大糰屋</b> みそ甘酒 金山寺 48-2453	⑦ <b>満美屋</b> 御菓子司 横須賀パウンド ラムリーヌ 48-2174	⑥ <b>まこや</b> パティスリー 手作り洋菓子 48-2441	⑤ <b>愛宕下羊羹</b> 遠州横須賀名物 48-2296	④ <b>大鼓最中</b> 菓子司しみづ 遠州横須賀名物 48-2179	③ <b>葵天下</b> 醸造元 遠州横須賀銘酒 48-2012	② <b>栄醤油醸造</b> 創業寛政七年 48-2114	① <b>栗山製麩所</b> ジャンボみ菓子 48-4953

お気軽にご相談下さい  
見積り無料

# 祭礼関連 職人集団!!

祭礼文化調査研究  
技術・製作工房

# 伍匠

連絡先 〒437-1301  
静岡県遠州横須賀新屋町83

竹内 誠人

TEL 0537-48-2110  
FAX 0537-48-2894  
携帯 090-7670-9203



令和4年4月 遠州横須賀大工町  
出し人形 令和の大修理完成

上棟・お祭り・イベント用 投げ餅

## 松葉米穀店

遠州横須賀369(東新町) TEL 0537-48-2068

仕出し 鮮魚

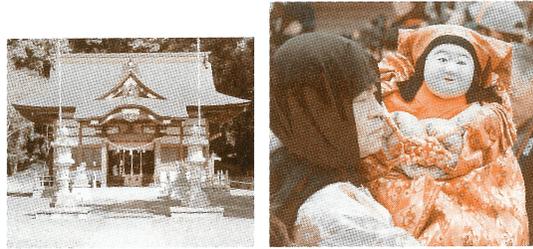
## 有限会社 けしもや

遠州横須賀231(東田町)  
TEL.0537-48-2631(代) FAX.0537-48-5000

シューズ

## ミヨシカ

遠州横須賀135(西本町)  
TEL・FAX.0537-48-2210



## 子授けの神事 三熊野神社

〒437-1304 静岡県掛川市西大淵5631-1  
電話: 0537-48-2739  
ホームページ: <http://www4.tokai.or.jp/mikuma/>

時計・宝飾・メガネ

## ミエズ時計店

遠州横須賀東本町 ☎0537-48-3197



西大谷池 軽食・喫茶 「櫟」

営業時間/AM10:00~PM4:00  
定休日/月・火曜日  
〒437-1304 掛川市西大淵6560-29  
☎0537(48)5562

## 横須賀足袋 わたや

店主 竹内 誠人  
〒437-1301 静岡県遠州横須賀新屋町83(掛川市)  
TEL 0537-48-2110/FAX 48-2894  
携帯 090-7670-9203



遠州横須賀河原町



予約注文も承ります。

☎0537 (48)3613

商い時間 AM11:00~PM6:00  
定休日 毎週日曜日と月曜日です。

## スターオートサービス

静岡県袋井市山崎4682-1  
TEL.0538-31-7213 FAX.0538-31-8220

各種印刷

## 有限会社 桑原印刷所

〒437-1301 静岡県掛川市横須賀1445  
TEL.0537-48-2148 FAX.0537-48-5660

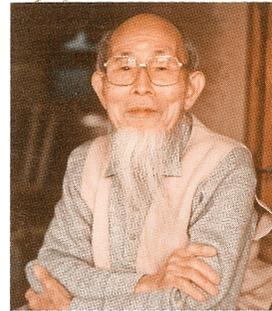
「お祭り命」で一年を過ごす所謂「ねりきち」一番の自慢は、何と言っても「襷里」だ。  
江戸後期には、「神田明神祭礼絵巻」に見られるような簡素なものであったが、幕末から明治、大正期にかけ、先人達は祭りへの情熱の限りを尽くし、それぞれに特徴ある意匠の襷里を名工とともに造り上げた。さらに数十年の時を経て平成の世になると、新たな意匠を加え、現在にみられる見事な襷里となった。まち衆の熱い思いにあらん限りの技で応えた匠の腕の冴えをひとつの「煌めき」ととらえ、彫刻・鍔金具・天幕(刺繍幕)等をそれぞれに今一度見つめ、作品に込められた匠の思いや優れた技術を紹介することで、次代を担う「ねりきち」達に伝えていきたい。

一町衆の思いを乗せて

## 匠の技、煌めく

襷里に魂を吹き込む名工の足跡をシリーズで紹介

## 「おらん町(とこ)の彫刻師」



浦部 一郎氏  
【號名 彫一・清風】

堂宮彫刻師浦部一郎氏は、昭和から平成初期にかけて遠州地方一帯で腕を振った浜松住の彫刻師です。明治四十年三州豊橋に生まれ、大正十一年幼少の頃高須宗信氏(地元正宗寺山門彫刻)に感銘を受けて入門、長きに渡り研鑽を重ねて昭和五年に師のもとを辞し、結婚を機に活動の場を求めて浜松に移住。以降浜松市内の社寺仏閣に奉仕、戦後は浜松まつりの屋台を中心に広く遠州地方の山車・屋台の彫刻を担うようになります。氏は極めて謹厳実直の人であり、いくつかの信念を持って製作に臨んでいました。

「人物などの彫刻はどの角度から見ても不自然にならぬ様、龍は絵画と違って骨格がしっかりしていないと力強く見えない」などの拘りがあり、また「勤考」が口癖で製作にあたり真正面から材料と向き合うが故に氏の作風は緩急自在、巧みな空間の取り方、程よいボリューム感を持ち合わせ、昨今の彫刻に見られる息詰まり感がありません。

横須賀でもその匠の技は遺憾なく発揮され、中本町・西本町・東田町にその名が刻まれています。

### 中本町下台彫刻：昭和八年

浦部氏初めての浜松市以外での仕事、山車・屋台彫刻としても処女作と思われます。

中本町の要請に応え当時横須賀で名声を誇っていた中山由太郎氏と試作品を以って腕比べをすることとなり、見事製作権を勝ち取りました。「努力奮発大いに務めた」との浦部氏の言葉どおり試作として彫られた「紅葉に鹿」は庄巻の出来栄えではありましたが、本作では新たな鹿とされたのは残念の極みです。

中本町の襷里は、その意匠の巧みさや豪華さから「横須賀一」と謳われて来ましたが、浦部氏の腕の冴えと一刀一刃に込められた作品への思いがあふれる彫刻群によると言っても過言ではありません。高欄には花札の図柄をあしらった一月から十二月の細密彫り、支輪には見切りを跨いでこぼした龍の図、その下部には木瓜囲みの浪文様、さらには宝珠柱四隅の鯉の滝のぼりが据えられその名に恥じない出来栄えとなっています。



【紅葉に鹿】  
中山由太郎氏との腕比べに挑んだ作品



【高欄彫刻：獅子に牡丹】



【支輪彫刻：龍の図】  
支輪台の波頭図に見切りを跨いでこぼした龍は庄巻



【鯉の滝のぼり】  
平成14年の襷里大改修後地元彫刻師松林氏の手により復元

### 西本町下台彫刻：昭和三十年

高欄には七福神・仙人・武将・獅子舞などの人物像、支輪には水浪に因んだ物語などが彫られていますが、見切りは無く幅広い材に軽快な水の流れの中に昔話などが表情豊かに表現されています。

高欄四隅には丸彫りの龍が据えられ、中本町の龍と共に氏の真骨頂の技が光っています。



【高欄彫刻：恵比寿・大黒】



【支輪彫刻：金太郎】



【高欄四隅：阿吽の龍】

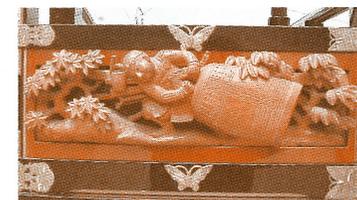
### 東田町下台：昭和三十二年

後付けの彫刻で高欄正面の三枚のみですが、氏の腕前は充分に発揮された作品です。

題材における東田町の「鐘引き弁慶」・西本町の「明智左馬之助」などを見る時、氏の知識の豊富さに驚かされずにはいられません。



【高欄彫刻：金太郎】



【高欄彫刻：鐘引き弁慶】



【高欄彫刻：鐘馗の鬼退治】

**揃** 4月5日(金)

12時～21時 禰里曳廻し

**宵宮** 4月6日(土)

8時～ 禰里供奉順籤引き  
 10時30分～ 三社祭礼囃子演技奉納祭[三熊野神社境内]  
 11時～17時 各町内役廻り  
 18時～21時 夜祭り

**本楽** 4月7日(日)

9時30分～10時 子授けの神事受付[三熊野神社拝殿]  
 9時30分～ 禰里曳廻し(河原町にて梓上げ11時より神輿供奉)  
 10時～ 例大祭・神幸祭  
 11時～14時 神輿渡御・還御・還幸祭  
 15時～16時30分 子授けの神事祈祷  
 地固め舞・田遊び奉納[三熊野神社境内]  
 夜祭り  
 21時 千秋楽[三熊野神社境内]



**大工町由来**

幕末期横須賀に住した国学者八木美穂(よしほ)が著わした「郷里雑記」によれば、大工町の町割りには寛永二十年(1643)第十一代城主井上正利公の時代に横須賀港に運ばれた建築用材木の製材・加工と、寺社や侍屋敷の建築を担う職人の町として横須賀藩下台所の地に建てられました。その後明暦二年(1656)第十二代城主本多利長公の治世となり、馬場設置のため現在地に移されたと言われています。

**せ組の由来**

大工町が当初建てられた地(下台所)の南側には普段は川水の少ない「浅瀬(西大谷川)」があり、それに因み「せ組」を組名としたと伝えられています。



**禰里**

現在の禰里は、天保二年(1831)に建造された禰里の形を踏襲して、平成十三年に中村藤夫棟梁により新調されました。特筆すべきは、高欄乗座部分が下台より大きくなっていることで、他町の禰里には見られない構造となっています。また、車輪の中心を成す轂(こしき)が輻(や)の数に合わせた二十一角となっている点や、八角形の鍋蓋など伝統を重んじる町ならではの雄姿です。



**出し**

昭和四十年代までは迫力溢れる「熊坂長範と牛若丸」の出し人形でしたが、町内鳥山氏の寄贈により現在の「新田義貞と従者」の出し人形となりました。令和四年に人形の化粧直しや鎧・衣装の新調などの大改修が行われ、あらたなまち衆の自慢となっています。特に鎧は専門の職人(鎌倉市在住)の手によるもので、細部に渡り丹念に仕上げられた逸品です。

**禰里彫刻**

出し人形を支える八角形の鍋蓋に施された彫刻は、天保年間の作品と言われ不明ながら立川流彫刻師の手による物と言われています。また、下台高欄部分を飾るのは旧新野村に住して活躍した増田弥作氏の作品で、極厚の榿材に「唐獅子牡丹」や「波に龍」、後部には川中島合戦の外題が精緻な鑿の冴えを以って描かれています。



**万度**

万度文字は「四海・連帯・平和・道義」、額縁を四枚合わせた形は万度本来の形状を継承しています。



**天幕**

大正十三年東京三越で作られた緋羅紗地に「竹に虎」の刺繍、平成十三年の禰里新調時に復元新調され、前作をも上回る出来栄えとなっています。また、裏絵には嵐絵の名人と謳われた神尾政信氏による逸品「黒雲に龍」が施されていましたが、同年に志村光一氏の手により復元されています。



おのり町の禰里自慢！  
大工町(せ組)